

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391500149		
法人名	株式会社 鎌田電設		
事業所名	グループホーム さざなみ		
所在地	熊本県天草市有明町赤崎1974番地		
自己評価作成日	平成24年9月 1日	評価結果市町村受理日	平成24年12月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41—5		
訪問調査日	平成24年11月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設3年目に入り、徐々に地域に馴染んできたように思われます。今後、更に、地域の方々との触れ合いを大切にしたいと考えております。敷地内にある無農薬野菜の収穫時には、入居者様、職員で行っていると、それを見ては、周囲の方々が自らお手伝いに来られたり、楽しく話をしながら行っております。地区の中心地でもあり、いつでも出入りが出来るように心がけています。又、近くにスーパーがあり、いつでも入居者様と買い物出来ます。今まで以上に、入居者様が安心して暮らせる環境作りを目指します。地域の方々には、認知症の事、さざなみの事を理解いただけるように職員一同頑張っていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域との交流がスムーズに出来る立地条件にあり、前庭の畑へ野菜や花を植えるなど地域から参加され、交流が気軽に行われている。特にホーム事業(ぎおん際、バーベキュー会など)家族会、老人会、地域住民等の参加が多く、認知症のこと、さざなみの事業への理解を得るなど、地域密着型サービス施設としての理解を高める努力が行われている。食事をしたりテレビを見たりするリビングには、皆が歌い継いできた「天草小唄」や「童謡」の歌詞を大きく書いて貼りだし、希望者が歌を交え体をゆったり動かし踊るなど、楽しげに時間を過ごしておられた。利用者ごとの要望や願望を的確に捉え、一人ひとりに合わせた介護計画が立てられ、職員全員で共有し合い入居者の楽しい毎日が過ごせるように配慮されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初の理念が生かされるように新人職員には、プリントして配布、説明している。又、忘れないように見える所にプリントを貼って確認している。	ホームの玄関フロア正面に「理念」が額に入れられ掲げられているが、文字が小さいことと、高い位置に貼られているため、背伸びをして見るが読み取れない。また、同じ壁面の下方に再度「理念」が掲示されているが、来訪者等の外部の方に分かってもらう「理念」の掲示にはなっていない。	職員は事業所が掲げる「理念」を認識しているが、研修時には、実践に繋げる具体的な事例等を挙げ、業務に反映させる工夫も必要かと思われた。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	前の畑の野菜収穫時にはご近所様も参加されて一緒に収穫される。又、猫好きな入居者が隣の家人の猫を可愛がったり、話をされたりして交流が昨年よりもできてきていると思う。	ホームは有明町赤崎地区の住宅地のほぼ中心地にあり、開設時から隣・近所、地区住民など、外部との交流が活発に取られている。ホーム前に設えられた20坪程の畑の野菜収穫時には自然発生的に周辺住民の手伝いもあり、日向ぼっこ・散歩時にも交流ができています。敬老会・クリスマス会などには施設長がご近所へお誘いに回り、多くの参加を得るなど、積極的な交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだまだ認知症についての理解が乏しいと思われる。もっと、施設行事への参加を呼びかけていこうと思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。記録者担当の変更もあり、よりスタッフを知って頂いていると思う。更に各人のご意見をお聴きし、ご協力頂こうと思う。	前年度、運営推進会議後の意見交換会で消防訓練時に地域からの見学を勧めたり、誕生会などイベント時の料理作りにボランティアを依頼し成功するなど、会議の活用も進んできており、今後はスタッフとの交流強化を図るなど、サービス向上に役立てている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加いただき、直接、意見交換をしている。	ホームの会議録を見て、空き室状況を知り、入居者対応への協力を得たり、地域の人のディサービスとしての利用を提案するなど、地域事情に詳しい行政ならではの協力体制が得られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束だけでは無く、「玄関の鍵」は、スタッフが見守りをして定期的に解除している。より拘束防止に向けて努力したい。	利用者への直接的な身体拘束は見られず、自由で楽しい雰囲気。玄関は徘徊傾向の強い利用者の行動に合わせ、施錠されていたが、現在は落ち着いていることから、センサーによる小さなチャイム音で玄関の出入りを管理し、行動の拘束をしない工夫もみられた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	すべてのスタッフが虐待防止につとめていたつもりだが、玄関の鍵も拘束にあたることに気づき、解除するように心がけている。又、市が行っている講義にも参加し、不参加の者には、資料を配布し説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議でもプリントで学習し、少しでも知識をつけるようにしている。繰り返し、学習する事としている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	以前は、契約までに事業主だけの場合と、その後、施設長、管理者で行っていた。しかし、このように行くと、間違いが起こることがあり、契約困難になったことがあった。それからは、管理者が話しをお聴きし、施設長、管理者、スタッフで面接を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時、電話、手紙等で話す機会を作っている。又、スタッフも来訪時には、近況報告などを行ってご家族と交流している。	地元在住の家族が多く、来訪の機会も多いことから、面会時に意見や要望を聞き取れることを意識されている。利用者の親戚の訪問も多くあり、家族が言いにくいことは代弁者として意見を引き出すことも可能と思われるが、要望は殆ど出ないとのこと。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り、会議などを利用したり、個別に意見を聴いたりしている。又、申し送りノートの活用もある。ノートは、職員が自由に書けるようになっている。書いた人の名、読んだ人の名を記入するようにしている。	申し送りや意見を記入するファイルには、多様な情報が入れられていたが、一目見て何時・誰が・何をどのように意見として発せられたのかを知るには難しい状況と思われた。少し整理し、出された意見がどのように反映されたのか、職員の共通認識として理解するための工夫が必要かと思われた。職員間の交流として四半期に一回程度「飲み会」を開催。本音を出し合う機会を作り活用。職員の定着率の高さに、その成果が反映されているようにみられた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	以前よりは減ったが、開設者もホームへ来て、職員と話しをしている。話し易い環境だと考えられる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の通知は、申し送りノートに挟んでおく。希望があれば参加できるように調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の職場の交流会、講習会に積極的に参加を呼びかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の要望を聴きやすいように時間をつくり傾聴するように心がけて納得、安心されるサービスを行っていくように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の来訪時に直接お話を聴きしたりして、現在の不安や要望を聴くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の来訪時に直接お話を聴きしたりして、適したサービスで利用して頂く。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本位で良い関係を気付いていくようにしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来訪時に直接お話を聴きしたりして、現在の不安や要望を聴くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	季節感が得られるようにドライブでさくら見物、花壇の花植え等を体験して頂いている。また、電話等への対応もすぐに行っている。	「今日はホームの大掃除だから・・・」と、出精で引き籠りがちな利用者も誘導。全員揃っての外出機会を作っている。入居者の殆んどが地域内近隣の住民であり、ホームも地域住宅地の中にあることから、近隣との交流もし易く継続した係わりが維持されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	茶碗洗い、洗濯物たたみを入居者様でされており、スタッフは見守りながら解られない所を支援し、孤立される入居者様がいないように見守りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、契約中止後にも、訪問したりして関係が続くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自室に1人で居られる時などに個別に話しを聴いて、希望、把握に努めている。	自分の思いや要望を出せない利用者もあり、理念である「ゆっくり・じっくり・しっかり」をモットーに、心を開いて話しができる様に努力。家に残してきた「金庫」が気になるのだが・・・という利用者と一緒に自宅へ見に行き「安心」を共有したという事例も持っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	医師や、ご近所を散歩したりして、情報収集をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックや、受診時の検査を職員で情報交換している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の希望、ご家族の希望などをお聴きし、医師、担当職員との話し合いでその方に沿うような計画を立てている。	若い男性スタッフが三名在籍。入居者の孫のような存在としてと何でも話せる関係を作っており、女性スタッフと協力体制が取れており家族の意見も交えながらモニタリングを基に介護計画が立てられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	体調変化時には、ご本人、ご家族、医師などの相談し計画を変更している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の思いを大切に、利用者本位で心地よい関係作りをしていく。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われる行事に参加している。例えば、村祭り、菖蒲祭りなど。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様が以前より信頼している医師にお願いしている。看護師が先生と相談したり、手紙でも状態を報告したりしている。 4/8	かかりつけ医等の病院利用は緊急時を除いて家族が同行することから、看護師が医師と相談したうえで、文書・手紙で状況・状態を伝達している。ホーム設立当時から意思との交流が、医療と介護の連携にもつながっているようにみられた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が日々の状態の報告、手紙などで受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院されたら、ご家族、医師との話し合いで対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重篤になられる前に医師と相談して、緊急時の為に、紹介状を依頼している。	開設以来「看取り」の対応はなく、今後利用者の体調不良が重篤になられた場合も、ホームには一人の看護師しか在籍せず、万全の対応を取ることが難しいことから、家族の承諾を得、医療機関での対応を依頼することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変以前に医師へアドバイスを頂いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練を実施している。また、今年度は、津波の想定で町内の訓練に参加した。	今年も九月に火災訓練を実施。地域の消火栓を利用して放水し、近隣の協力も得て緊張感のある訓練となった。また、新人職員を含み心肺蘇生の訓練も実施。開催後のミーティングで今後の対応を再検討。まじかに広がる海岸からの津波も想定し、町内の訓練にも参加。高台への避難などを対応した。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保も注意している。外出時には、居室に鍵をかけて安心した生活ができるように心がけている。	男性の入居者も多いが、職員にも男性が多く、同性介助ができているが、利用者は「何も気にせんよ」と、おおらか。それでも、外出時には自室に鍵をかけて出掛けるなどの対応があり、入居者の感性にマッチした処遇が図られていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お話しの中から本人の希望をお聴きしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースで生活されていて、無理の無いように見守りをしている。 5/8		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみが乱れている所は、声かけをして直している。また、訪問理容を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日などには、散らし寿司や、巻き寿司、いなりなど、好みの物をお聴きしている。最近では、入居者様が中心に準備、調理、配膳、片付けを行っていて、職員は、常に見守りを行っている。	調理・配膳・食事介助と小まめに動く人がおり、専属の職員かと思われたが、入居者の一人との説明にビックリ。入所当時は何もしておられなかったのが、何時の間にか残存能力を活かし、手伝われるようになり、現在ではイキイキと存在感を発揮されている。後方で見守るスタッフが教えてもらうこともあり、楽しい食事作りや配膳・後片付けと、食事に関しての楽しみが拡大しているようだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好きな飲み物をお聴きしたりして対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立されて居ない方は、スタッフと一緒にやっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ズボンの上げ下げは声かけにて本人様に行ってもらっている。個々により、リハビリパンツを使用したり、パットに代えたりしている。困難な部分のみ支援している。	居室にあるブザーを利用してくれない入居者には、ベッド下にセンサーを敷き、トイレに立たれるタイミングを把握し、介助に当たっており、極力オムツをせず、リハビリパンツやパットの利用で排泄の自立を促す支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に、牛乳やお茶を飲んでいただいている。又、脱水予防にも心がけており、個々の好みの飲み物にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は本人にお聴きして希望を聴いたりしている。原則的には、希望時には、入浴して頂いている。拒否される場合は、スタッフを替えたり、再度、誘導したりしている。	浴室は、洗い場が広く、2～3人が一緒に入れそうな大き目の浴槽は檜作り。スタッフにとって手入れが大変な檜風呂も、利用者にとってはお湯が柔らかくなり、浴槽の肌触りも優しいことから好評。若い男性職員がいるから、力強く安心」という声も聴かれた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に休みたい場合は、自室にて休んで頂いている。夏の場合は、クーラーを入眠前につけて、室温を保っている。 6/8		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人様へは、食卓へ座られてから食後に飲まれるように説明している。氏名、日付、飲み方を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日のスケジュールを書いて、それに従って実行している。また、買い物に行ったり、調理したり、歌を歌ったりして過している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族との交流を考え、外泊、外出を勧めている。個別に、本人の希望をお聴きしている。	開設当時からの入居者も年月が経過すると共に介護レベルも高くなり、買い物に出掛ける回数も減少しているが、家族との係わり継続を意識し、外出・外泊を推奨。「この間はどこか行ったよ」入居者は出掛けた先は覚えていないが、楽しかった記憶をニコニコと話してくれた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持で可能な方は持参されている。妄想があられる方は、ご家族より依頼しており、事務所で保管している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書かれる方は居られないが、定期的に電話連絡されている方が居る。又、ご家族と週に1回と決められている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレには、写真や絵を張ってどこのトイレも使い易いようにしている。又、日差し避けにすだれ等で居心地良く暮らせるようにしている。	ダイニングとリビングが繋がり、小上がりになった和室と大きなソファが、寛ぎのスペースとなっている。食卓はテーブルが直線ではなく、体に合わせたような曲線で、椅子からテーブルまで体を押し付けることなくフィットさせている。高い天井の窓から光が入り、明るい空間を作って、空気を流通させている。壁には相田みつおの詩を色紙に書き写して展示したり、替え歌の歌詞を書いて貼り、皆で歌える状況を作るなど、親しみやすい空間づくりに努力が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳、ソファ、掘コタツ、食卓で自由に過せるようになっている。又、テレビが見たい時には、3台設置してある為、好きな所で見る事ができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、好きなものを持ってきて頂いている。好きなように使っている。スタッフの出入り時には許可を頂いている。	元気な時の自宅がそうであったことを想像させるような、何気ない必需品だけが置かれた部屋が多くみられた。ご先祖様かパートナーのものか…位牌が棚に祭られた部屋も。自分の部屋は自分の家との認識からか、外出時の施錠もうなづける気がした。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には、植物の名前の札をさげ、お風呂には、紙で書いて貼っている。夜間では、西側のトイレは目でご不自由な方が利用される為、電気を点けて誘導している。		